

〈日本臨床歯科学会熊本支部例会発表事前抄録〉

日時：2023年3月28日（火）19：30～

会場：添島歯科クリニック研修室

－ 一般講演抄録 1 －

下顎大臼歯部欠損を有するAngle3級反対咬合の患者に対し包括的治療を行った症例

やまだ歯科 山田宗敬 〒862-0963 熊本県熊本市南区出仲間 7-1-36

■抄録

前歯部が反対咬合の場合、アンテリアガイダンスの欠如により臼歯部の干渉を起こし、咬合性外傷やクラックに起因するカリエス治療の繰り返しの末、歯根破折に至ることで臼歯部から欠損となることが多い。その場合、欠損した臼歯部をインプラントなどで補綴しても、同じ理由でインプラントか対合歯に問題が起こってしまう。根本的な解決のためには前歯部の被蓋の改善が必須である。

本症例は初診時 64 歳男性で右上 3 番の欠損を伴う Angle 3 級の反対咬合を呈していた。ブラキシズムの既往もあり臼歯部からの崩壊が始まっていた。そこで咬合崩壊を阻止するためパーティカルストップを臼歯部のインプラントで回復させた後、矯正医による全顎矯正を行い、前歯部の被蓋が改善した上で右上 3 番にインプラントを埋入しアンテリアガイダンスを獲得した。治療は長期に及んだものの患者満足は得られた。しかし、多少生理的に無理のある前歯部の歯軸になり、審美性、予知性に不安を残す結果となってしまった。これは治療開始前の診断や治療計画の立案の不備によるものであり、今回は反省点も含め発表させていただく。

本演題に関して開示すべき利益相反状態はありません。